カトリック山手教会月報

やまて

編集・発行　カトリック山手教会 広報委員会　〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎（045）641－0735　http://catholicyamate.org/

第634号　2022年12月11日

「主の降誕」の時を迎えて

主任司祭　ミカエル鈴木 真

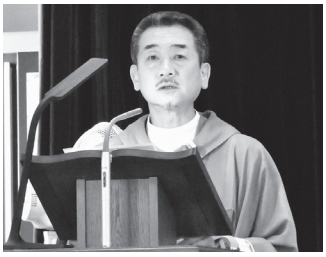
今年も待降節に入りました。毎年この季節を迎えると考えてしまうのが、「クリスマス」という言葉です。ご存じかもしれませんが、「クリスマス」とは Christ mass　つまり「キリストのミサ」という意味です。キリストのミサ？そもそもミサはキリストの受難と復活の記念。果たしてキリストでないミサなんかあるのか？ ･･･などといろいろ考えちゃいます。さらに、わたしたちは「クリスマスミサ」とか「クリスマスのミサ」とか言っちゃいますが、これは言葉の意味からすると「キリストのミサミサ」になっちゃいますよね。今や「クリスマス」という名称は世界中に広まってて、その由来もよくわからないんですが、キリスト教国には、それぞれの言語で「降誕」を表す言葉で呼ばれていました。例えばフランス語の「ノエル」、イタリア語の「ナターレ」など。日本のカトリック教会での正式名称は「主の降誕」です。なので、なるべくこっちを使おうと思っていても、つい「クリスマス」「クリスマスのミサ」と言っちゃいます･･･よね。

横浜雙葉学園でも、毎年中高、小学校それぞれで、一足早く「主の降誕」のミサを全校でささげています。小学校のミサでは、説教の時に毎回絵本を使うんですが、何十年もやっているうちにネタ切れになってきました。初めのうちはバレないだろう･･･と３年くらい前に使った絵本を読んだりしてましたが、子どもたちはよく覚えていて「それ、前に聞いた」とか言われちゃうので、考えた末、10年位前から６冊の絵本をローテーションで使うことにしました。こうすれば、一人の子どもが卒業するまで、違う絵本が聞ける！というわけです。そんなわけで長年の間、さまざまなクリスマス物の（また使っちゃった！）絵本を集めましたが、「主の降誕」にまつわる話は、本当にいいものがたくさんあることに気づかされました。よくあるパターンは、貧しい人がイエスさまに贈り物をしようとして、でも何にも持っていないので、せめてもと、みすぼらしい何かをおささげすると、それを神さまがすばらしいものに変えてくださる･･･というものです。あるいは、ディケンズの「クリスマス・キャロル」のように、イエス･キリストの「キ」の字も出てこないけど、「主の降誕」を祝う時には、誰もが誰かを喜ばせようという気持ちになる･･･という話。2000年の間にいろんな福音的な物語が生まれていったのも、イエスというお方が世に来られた、ということを通して、神さまがなさったわざ、言わば人類に対する「プレゼント」に他ならないのでしょう。

今年も「主の降誕」を祝うにあたって、お互いに、誰かを喜ばせることができれば･･･と思います。

鈴木真主任司祭　主日ミサ説教

2022年11月13日　年間第33主日　C年
ルカ福音書　21章　5-19節



きょうの箇所は、「小黙示録」と呼ばれる、もっぱら〈世の終わり〉について語られている箇所ですが、原形はマルコ13章だとされています。

『聖書と典礼』の注書きにも触れられてますが、エルサレムの神殿は、紀元70年にローマ軍によって破壊されてしまいました。ちょうどその頃編集されたマルコ福音書では、「神殿も崩壊しちゃったし、いよいよ世の終わりだ･･･」という一種の臨場感がありますが、その約十年後に編集されたマタイとルカでは「あれ？ ･･･なんか終末ってすぐには来ないの？」という、いわゆる「終末遅延」の問題と言われる事態になりました。すぐにでも世の終わりがやってくる、とされた頃は、それゆえに迫害にも一生懸命耐えていたわけですが、すぐには来ないとなると、「なんだ･･･頑張ったって無駄じゃん」という一種のゆるみが生じて、初期の教会は信仰の大きな危機にさらされた、と言われます。

そんな問題に対して、マタイとルカ、そして紀元90年代に編集されたヨハネ福音書は、それぞれがその答えを用意しています。

まず、何かと裁きを語るのが好きなマタイでは、あくまで終末は来るんだから、今から気を抜くな！というように叱咤激励します。

その点、ヨハネは独特で、イエスがこの世に来られたことによって、実はまさに終末は始まっている、今、わたしたちは終末という長い黄昏の時期を生きているのだ･･･というふうに位置付けます。

そして、きょうの箇所のルカは、いつ来るかわからない終末を気にするより、むしろ「今」という時をどう生きるのかに目を向けよ、とメッセージします。結果として３福音書共に「今」に目を向けさせるわけですが、その理由付けがそれぞれ、ということでしょう。

特に、きょうのルカでは「しかし、これらのことすべてが起こる前に･･･」と“迫害の今”へと目を向けさせます。そして、ルカの大きな特徴は、恐ろしい迫害を示しながらも「神さまがすべて対処なさるから、心配ないよ」と強調しちゃうところですね。「忍耐」と訳されているのは、“もとに留まる”という意味の言葉で、ここでは〈神のもとに留まる〉と〈この世に留まる〉という二つの意味が込められている、とされます。マルコやマタイが「耐え忍ぶ」という言葉でまさに「我慢しろ！」という感じのことを言っちゃうのに対して、ルカでは、ひたすら神さまに信頼し、今、自分が置かれた状況に留まりなさい、と言うわけです。

考えてみれば、「戦争」「暴動」「地震」「飢饉」「疫病」など、全部、今、そして今までに起きていることですよね。その意味では、ヨハネが位置付けるように、わたしたちは、まさに今、「終末」という長い黄昏の時を生きているのかもしれません。ただ、信じる者にとって、それは決して「滅び」の時なのではなく、神さまの「救い」が示される時に他ならないのでしょう。

現代にあっても、実際、わたしたちは、さまざまな困難にさらされているわけですが、どんなことがあっても、必ずそこに神さまの救いのはたらきが示されている･･･そのことを信じて神さまのもとに留まり、共に歩んでいきたいと思います。

（撮影：編集部　土方芳人）

ダリル･サントス･ディニョ助任司祭 主日ミサ説教

2022年11月６日（日）　年間第32主日　C年
ルカ福音書　20章　27-38節

皆さん、おはようございます！

きょうの第１朗読では、７人の兄弟とその母親について述べられています。彼らは異教の王により逮捕され、拷問を受けました。この話は、神の救いの力に対する彼らの信仰が、彼らを永遠の命へと導くことを示しています。

福音書では、サドカイ派の人々がイエスに天国に

ついて尋ねました。私たちが死んだ後、それはすべての終わりです。彼らは７人の兄弟の物語を使用して、復活の時に彼女が誰の妻になるかを知りたがっていました。サドカイ派の人々は死者の復活を信じていません。

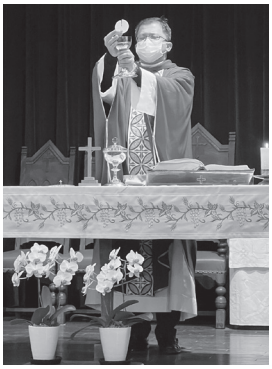
ここで私たちの主イエス･キリストは､死後の世界について教えてくださいます。イエスは､復活の時､人々は結婚しないと答えています！復活した人は天使のようになるのであって死ぬのではありません！

迫害や問題､美しいものや健康､富や栄華などは､地上での私たちの生活の一部ですが、この地上に永続的なものは何もありません。きょうの朗読は、地上の生活を超えた生活に焦点をあてるよう私たちを促します。ですから、私たちは毎日、主の恵みによって強めていただくよう心を開いている必要があります。私たちの主イエス・キリストは､「私は復活であり、命であり、私を信じる者は決して死ぬことはありません｡」と言われます。

皆さん､地上での生活の後､永遠の命があります。イエスが忠実な私たち全員に約束してくださった輝かしい人生から目を離さないようにしましょう！復活は、この地上での私たちの希望です！

皆様にとって祝福されたすばらしい日曜日となりますように！

※日本語で原稿をいただきました。（編集部）



（撮影：編集部　田中麻子）

教会学校の初聖体ミサ

11月20日（土）13時30分から教会学校の子どもたちの初聖体ミサが、鈴木真師司式によりささげられました。今年度は、教会改修工事のためホールで行われました。参加者は、初聖体の子どもたちと、ご家族、教会学校の生徒と保護者、ヨゼフ会、ロザリオ会、ボーイスカウト、ガールスカウトと多くの方に参列していただくことができました。

まだコロナ禍であるため、ミサでは、聖歌「かみさまといつもいっしょ」「私をお使いください」を手話で賛美しました。お説教は、鈴木神父様の大好きな絵本「おいもをどうぞ」のお話を聴きました。取れたおいもを友達にわけてあげようとするやさしさを描いています。きょう初めていただくご聖体のパンは心を成長させる特別なものだということ。イエス様のように、たくさん人を愛して、困っている人に手を差し伸べて、すべての人を助ける、そのような心をもつ大切さ。そのようなことを改めて考えるきっかけをくださるお話でした。

今年は８人の子どもが初聖体を受け、神さまの子どもになりました。緊張しながらも、すっきりとした表情で、きょう、この日を迎えられたことをうれしく感じ、幸せそうな笑みを浮かべている子どもが多く見受けられました。

初聖体拝領では、ひとりずつ神父様の前に進み、初めてご聖体の中のイエス様をお迎えします。保護者の方、多くの参列者の方々に見守られる中で、温かい雰囲気のミサとなりました。

今年も、感染予防のための消毒や検温、マスクの着用など子どもたちにとっては引き続き、制約のある中でのクラスとなりました。マスクごしの表情を読み取ることの難しさもありました。けれども、限られた回数のクラスの中で、子どもたちは積極的に考え取り組み、意見を述べてくれていました。なによりも、初聖体ということにとても興味を示してくれていたことがすばらしいと感じます。

この度、共に初聖体を受けた子どもたちが、これからもそのつながりを大切に過ごしてほしいと願います。リーダー全員、保護者の方々のご協力によりクラスを行うことができましたこと感謝いたします。

子どもたちのためにお祈りくださった山手教会共同体の皆様に感謝と御礼を申し上げます。これからも､子どもたちをどうぞよろしくお願いいたします。

初聖体　おめでとうございます

ヨハネ	木下　塩見
マリア・クララ	久保田　結夏
マシュウ	マシュウヴィアカス小山
パウロ	小山　璃人
マリア	疋田　花
マリア・セシリア	根本　悠羽奈
マルコ	津端　慧
ルカ	村田　恵叶

おめでとうございます

（撮影：教会学校リーダー　髙橋治子

文：荻原 恵利佳）

メダイをかけていただく

飴をいただく

按手

ご家族とともに

（編集部　土方芳人）

七五三の祝福

11月13日（日）11時30分のミサ後に、主任司祭・鈴木真師による「七五三の祝福」が執り行われました。

参加者は３人で、儀式後、ミサの後に残っていた信徒から温かい拍手が送られました。

子どもたちは司祭からメダイを首にかけていただき、飴が入った袋を手渡されて、うれしそうでした。飴が気になって袋の中をのぞこうとする子どもがいて、司祭の祝福のときにも顔を上げず、撮影のタイミングをはかるのが大変でした。

神さまから子どもたちの上に、たくさんのお恵みが注がれますように！

帰天者の追悼ミサ

ヨゼフ会・ロザリオ会共催による、直近1年間に帰天された37人の方々のための追悼ミサが、主任司

祭・鈴木真師司式により11月５日（土）10時から厳かに執り行われました。

祭儀には、ご遺族46人のほか、主催者のヨゼフ会会長・岡崎芳浩氏、ロザリオ会会長・山本紀志子氏など関係者が参列しました。先唱は、教会委員会委員長・ヨゼフ会会長を歴任したヨゼフ会・幹事の末澤二朗氏、聖書朗読は教会委員会財務委員長でヨゼフ会・幹事の佐藤康夫氏、オルガン演奏は元教会委員会委員長の太田康子氏が担当しました。

ミサでは、参加者全員で帰天された方々の永遠の安息を祈りました。

鈴木真師説教

「死者を見送る」と言います。あるいは、「告別」つまり別れを告げる･･･と。日本のカトリックの葬儀にも、そうした表現がよく出てきますが、時々違和感を覚えてしまいます。なぜなら、人が亡くなったら、その人はすでに神さまの御元に呼ばれ、永遠の安息の中におられる。それなのに今さら「見送る」とか「別れを告げる」というのも変なのでは？と思ってしまうわけです。恐らくこれは、この世に残された者が、召された人の死を受け取るためのもの、なのでしょう。一方で「追悼」という言葉もよく使います。ちょっと気になって昨年調べてみたら、「亡くなった人を思い出し、悲しむこと」とありました。これも･･･どうなの？と思っちゃいました。亡くなった人のことを思い出すのはいいとしても、「悲しむ」というのは、なんとなくカトリックの信仰とぴったり来ないように感じます。いずれにしても、人が亡くなるとすべての人は神さまの御元に呼ばれて、何の心配もないはずなのに、やはりこの世に残された人たちは、その喪失感もあって、なかなかその人の「死」を受け取るのが難しい、ということかもしれません。

私事で恐縮ですが、わたしの父は、わたしが５歳の時、突然、脳内出血で亡くなりました。この話は今年、いろんな所でしちゃってるんですが･･･あまりに突然亡くなったので墓がなく、仕方なく父方の祖父が自分のために建ててあった寺の墓地に埋葬しました。父は洗礼を受けてはいませんでしたが、母はそれがよほど嫌だったらしく、コツコツとお金を貯めて、17回忌の時、ようやく鎌倉霊園に作った墓にお骨を移しました。わたしは、すでに神学生でした。その時、長いことお世話になったレデンプトール会の神父さんが「あなたのお父さんは、生きていればいつの日か必ず洗礼を受けたことでしょう。だから、『ヨゼフ』という名前をあげましょう」と言ったんです。わたしたち家族は「わーい！」と墓誌に「ヨゼフ鈴木恵夫(しげお)」と刻んだんですが、後から考えてみたら「そんなのもありか―！」とつくづく思いました。亡くなって18年してから名前がもらえちゃう。これって、何でもあり、だなと。神さまは、すべての人を御元に呼んで救ってくださる。でも、この世で生きるわたしたちは、なかなかそれを受け取れない･･･ならばわたしたちが抱えるそんな悲しみや戸惑いも、神さまはすべてよくご存じのはず。だったら、何でもありだな、と思いました。なので、わたしは司祭になってから、この「何でもあり」でやっちゃってます。「亡くなった主人は、洗礼を受けてなかったんですけど･･･」「全然いいですよ。教会で葬儀ミサをやりましょう」「あの、お名前なんか頂いても･･･」「どうぞ、どうぞ、いいですよ。わたしの父も亡くなって18年してから名前をもらいましたから」ってな具合です。

何よりも、わたしたちが亡くなられた人たちに思いを馳せ、追悼して祈ることは、神さまから頂いているこの世を超えた「いのち」の恵みに目を向けることに他ならないのでしょう。きょうは、この１年に亡くなられた兄弟姉妹の永遠の安息に改めて目を向けて、神さまの御元でわたしたちを力強く支えてくださいますよう、豊かな取り次ぎを願って共に祈りたいと思います。

（撮影：編集部　土方芳人）

船員さんへの毛糸帽子編みご協力への御礼

今年も多くの皆様のご協力のおかげで、多くの毛糸の帽子を届けることができました。ありがとうございました。船内で船員さんたちは常にヘルメットをかぶっています。そして、毛糸の帽子は、そのヘルメットの下にかぶることによって、固いヘルメットと頭の間のクッションの役目をします。船員さんの生活を守る大切なものです。

船員の方々に思いを寄せるために、福祉委員会News第14号でお伝えした横浜教区ステラマリス横浜信徒代表である服部さんの言葉を改めてお伝えしたいと思います。

「コロナ禍の今、船員さんは港に着いても自由に陸に上がることができません。契約が終了してやっと家族のもとに帰れると喜んでも、交代要員が来ないためにずっと船に留め置かれている人もいます。さらに、ウクライナの戦争、コンテナ不足、スリランカの混迷･･･船員を取り巻く状況は悪くなる一方です。そんな中、船員さんに、今、私たちに何を求めているか伺ってみました。フィリピンの船員さんから返ってきた言葉は『祈り！どうか祈ってください！』というものでした。船員さんとその帰りを待つ家族のために、皆様もどうかお祈りください」

今年９月に行われた司教顧問会で、正式名称が「横浜教区ステラマリス」に変更になりました。横浜教区ステラマリスについて更にお知りになりたい方は、ホームページをご覧ください。

QRコードを読み取っていただくと、ホームページをご覧いただけます。

船員さんとともに

（福祉委員会　委員長　大森秀樹）

2022年11月度教会委員会議事要約

日時：2022年11月６日（日）13：30～15：35
場所：司祭・信徒館１階「松・竹」
議事内容（議事進行：小倉委員長）

１　主な審議確認検討事案　※順不同

⑴　主の降誕・神の母聖マリアのミサについて

●年末年始のミサについて申込書の案を作成。

【決定事項】

・主の降誕ミサ・神の母聖マリアのミサそれぞれに申し込むことができるようにする。
・事務所に申込書と回収箱を設置する。
・申込み締切りは12月４日（日）とする。

⑵　聖堂祭壇画調査について

●聖堂祭壇画の経年劣化が起きており、修復保存が必要な状況であるとのこと。

【決定事項】

・修復にかかる費用について確認し、次回教会委員会で報告する。

⑶　聖堂修繕終了後の結婚式について

●聖堂修繕終了後の結婚式の受付開始時期について検討したい。
●結婚講座の再開にあたっては講師や奉仕者の確保が問題となる。
●場当たり的に決めないほうがよい。現在、責任者も誰だかわからない状況にある。

【決定事項】

・冠婚葬祭を統括する体制を検討、継続審議とする。

⑷　ICCクリスマスのミサについて

●12月24日（土）の21時からもミサを行いたい。

【決定事項】

・承認する。

⑸　ICC主催によるCarols Songs Eveningについて

●12月４日（日）夜（17時から約１時間）に３年ぶりのCarols Songs Eveningを実施したい。

【決定事項】

・教会として定める感染症対策のルールの範囲内で開催を承認する。

⑹　ボーイスカウトより備品の借用願い

● ２月19日（日）に臨港パークにおいてボーイスカウトの催しがあり、教会の備品（テント、机、椅子など）をお借りしたい。

【決定事項】

・承認する。積み下ろしについては、聖堂改修工事を踏まえ予め時間などを調整する。

⑺　コロナ禍のミサと教会活動（継続審議）

● 第８波がインフルエンザと同時に来るというようなことが言われている。

● コロナのお祈りはどのように考えるか。

【決定事項】

・検温消毒については現段階では継続する。

・コロナのお祈りについては11月26日（土）からは一旦とりやめ、以降については教会委員会で検討する。

２　今後の活動、報告事項

【教学委員会より】

● 11月26日（土）入門式を実施。参加20人前後。

● 入信志願式は四旬節第１主日の２月26日（日）の予定として志願者にアナウンスをする。

【教会学校より】

● 11月20日（日）「子どもとともに、ささげるミサ」で初聖体。

【ロザリオ会より】

● 12月２日（金）ロザリオ会主催のミサを行う。

【馬小屋の設置について】

● 11月27日（日）11時半のミサ後に馬小屋を教会ホールの先唱台の前に屋根なしで設置する。

【福祉委員会より】

● 11月27日（日）、12月４日（日）にミニ福祉イベントを行う。

● クリスマスのミサ時に配るウエルカムカードを今年も準備する。

【英語ミサ司教訪問について】

● Coffee Socialを2023年９月10日（日）と10月８日（日）を候補日として司教館に申し込みをした。

【事務所より】

● 七五三の申込みは現状２人。

【ICCより】

● ICCから教会の修繕のために寄付する。

● ホームレスのサポートとしてクリスマスの前にお米などを集めて寄付したいと考えている。

【典礼委員会より】

● 年末年始については12月24日（土）のみ案内係を増員し、その他については通常のミサと同じ体制とする。

● 10月23日（日）に朗読の勉強会を開催し22人が参加した。

【追悼ミサについて】

● 11月５日（土）に実施、参加人数は46人。

【財務委員会より】

● 10月26日（水）に来年度予算を提出した。

● 詳細は信徒総会用資料にまとめる。

【修繕工事関連】

● 現在は仮設の屋根をかけて屋根の銅板をはがしているところ。

● ステンドグラスは予定どおり作業を開始。

● 内装工事は、11月７日（月）より足場の資材搬入ルートを準備、11月14日（月）から２週間ほどかけて聖堂内の足場を設置する。

【修繕工事寄付金状況について】

● 修繕工事寄付金について少額でもいいので個人の多くの方からの寄付をいただきたい。

【幼稚園より】

● ８時40分～９時30分の幼稚園の送迎時間に駐車場を横切ってくる人が多く、危険を感じる。駐車場を横切らず歩道から回ってきてほしいと周知されたい。

● 12月のクリスマス行事の際に３回、教会ホールを使わせていただく。

３　主任司祭から

● 12月10日（土）サポートチーム神奈川の感謝交流会。参加希望者は司祭へ。

● 12月11日（日）13時30分から「子どもとともに、ささげるミサ」。15時30分からボーイスカウトのクリスマス会。

４　次回教会委員会

12月４日（日）13時00分～15時00分終了予定。

（総務担当　宮 裕一）

2022年12月・2023年１月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主　日	聖　歌（歌わずに章句を唱えます）			聖歌隊	時　間	奉　仕　者				ミサ参加割当
		答唱詩編	アレルヤ唱	感謝の讃歌			オルガン	先　唱	聖書朗読		
12月４日	待降節第２主日	典136 ①②④	典255 待降節第２			前日pm5：00	村　松	竹之内	新井田	島田(節)	夜ミサAB
						7：30	太　田	石　賀	鈴木(幸)	鈴木(由)	朝ミサA
					＊	11：30	手　塚	山本(紀)	鈴木(理)	大　澤	昼ミサA
11日	待降節第３主日	典19 ①③④	典255 待降節第３			前日pm5：00	村　松	斎　藤	鈴木(明)	福田(直)	夜ミサAB
						7：30	中　川	二　宮	東海林	時　久	朝ミサB
					＊	11：30	佐　藤	遠　藤	石　田	中野(説)	昼ミサB
18日	待降節第４主日	典158 ②③④	典257 待降節第4A			前日pm5：00	藤　沼	工藤(元)	飯　塚	志　村	夜ミサAB
						7：30	渡　邊	末　澤	石　川	工藤(元)	朝ミサA
					＊	11：30	中　川	村田(義)	中川(由)	岩　隈	昼ミサA
25日	主の降誕祭	典148 ①④⑤	典258 主の降誕夜半		＊	前日pm7：00	佐　藤	田中(麻)	羽　石	阿部(眞)	別途選定
						7：30	手　塚	亀　井	古谷(浩)	藤本(茂)	別途選定
		典149 ①②③	典258 主の降誕日中		＊	11：30	米　沢	曽　禰	中山(峯)	鈴木(理)	別途選定
１月１日	神の母聖マリア祭	典55 ①②③	典258 神の母			前日pm5：00	忠　海	斎　藤	柳　川	櫻井(智)	別途選定
						7：30	手　塚	末　澤	鈴木(幸)	鈴木(由)	別途選定
					＊	11：30	太　田	曽　禰	鈴木(理)	大　澤	別途選定
８日	主の公現祭	典136 ①②③④	典258 主の公現			前日pm5：00	藤　沼	竹之内	新井田	島田(節)	夜ミサAB
						7：30	中　川	石　賀	東海林	時　久	朝ミサB
					＊	11：30	佐　藤	山本(紀)	石　田	中野(説)	昼ミサB
15日	年間第２主日	典54 ①②③	典271 年間第2A			前日pm5：00	村　松	斎　藤	鈴木(明)	福田(直)	夜ミサAB
						7：30	渡　邊	二　宮	石　川	工藤(元)	朝ミサA
					＊	11：30	米　沢	遠　藤	中川(由)	岩　隈	昼ミサA
22日	年間第３主日（神のことばの主日）	典73 ①②⑥	典268 年間第3A		＊	前日pm5：00	村　松	工藤(元)	飯　塚	志　村	夜ミサAB
						7：30	太　田	末　澤	古谷(浩)	藤本(茂)	朝ミサB
					＊	11：30	手　塚	村田(義)	中山(峯)	鈴木(理)	昼ミサB
29日	年間第４主日	典19 ①③④	典271 年間第4A		＊	前日pm5：00	忠　海	田中(麻)	羽　石	阿部(眞)	夜ミサAB
						7：30	太　田	曽　禰	上　村	早　川	朝ミサA
					＊	11：30	中　川	時　久	小　松	荻　原	昼ミサA

編　集　後　記

JR石川町駅から郵便局の坂を上がって山手教会へ行く途中、最後に急坂があります。その急坂を上がり始めて、すぐ右側の家にある駐車場の道路に面している場所に、茶と黒が混ざった若い猫が行儀よく座っている姿を度々見かけていました。なぜ、その場所に座っているのか分かりませんでしたが、ある時、その理由が分かりました。ある日、11時30分ミサに参加するため教会へ行きましたが、その急坂にさしかかると猫と中年の女性が見つめ合っていました。女性と猫の距離は５ｍ程度。わたしは、その場を通り過ぎてから気になり振り返ると、次の光景が目に飛び込んで来たのです。女性がカバンから何かを取り出そうとカサカサと音をたてた瞬間、いきなり猫が女性の足元に駆け寄り、彼女の顔を見ながら舌なめずりしたのです。そうです、お利口な猫ちゃんは猫好きな人に出会うと餌をもらえる可能性があることを学習し、座っていたのです。女性は何かを与えていました。猫ちゃん、良かったね。

（土方芳人）

☆表紙のカット（山手教会）は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。